

「八ツ場ダム——必要なのか、そもそもから考えてみましょう!!」

「ご近所のみなさん、日本共産党です。」

アメリカのオバマ大統領が、核兵器廃絶を呼びかけ、国連重視の、対話による国際問題解決に努力していることが評価されて、ノーベル平和賞を受賞することになりました。

多くのみなさんが、世界と日本が大きく変わりはじめているのを、実感しておられるのではないのでしょうか。ごいっしょに、核兵器廃絶の国際条約と交渉を求める声を広げて、世界政治を前に進めようではありませんか。詳しくは、「しんぶん赤旗」で是非お読み下さい。

みなさん。

日本共産党は、建設的野党として、よいことは新政権と協力して、実現をはかります。

労働者派遣法の改正や、最低賃金を時給千円以上に引き上げること、高校授業料の無償化や障害者自立支援法のいわゆる「応益負担」の廃止、生活保護の母子加算の復活などは、民主党自身の公約です。国民の切実な願いでもある、これらの公約は、ただちに実現するべきです。

年齢による命の線引き、後期高齢者医療制度は、既に、参議院段階で廃止法案が通っています。衆議院で廃止を実現するのは、国民みんなの願いではないでしょうか。

新政府と民主党が、新たな制度ができるまでということ、廃止を三年ないし四年も先送りしようとしているのは、納得できないことです。

日本共産党は、後期高齢者医療制度は廃止して、七十五才以上の高齢者と子どもの医療費を無料にするために、署名運動を進めています。ご協力を、よろしくお願いします。

「ご近所のみなさん。」

新政権のもとで、公共事業の見直しが進められ、群馬県の八ツ場ダムの建設中止が、発表されました。総事業費四六〇〇億円の事業です。

八ツ場ダムは、埼玉県を含む一都五県が財政負担をしている事業でもあり、多くの方が、疑問や関心をお持ちではないでしょうか。

そもそも八ツ場ダムは、戦争で森林が伐採され、山の保水能力がひどく弱まっていた時期・一九四七年の、大型台風・キヤスリン台風で起こった、大洪水をきっかけにつくられた事業計画でした。地元住民の猛反対で、計画が休止状態になったこともあります。

首都圏の利水と治水、両面から必要だということ、住民を説得して進められてきた事業ですが、今では、利水上も、治水上も、必要ないことが明らかになっています。

人口が減り、節水も進んで、東京でも埼玉でもどこでも、水は余っています。最近の一日最大水(みず)使用量と保有水源を比べてみても、一都四県(栃木は利水は除外)で、合わせて一日八〇〇万人分の水が余っている状態です。

治水上の問題はどうかと言えば、〇七年九月に襲った台風が、群馬県西部地域にキヤスリン台風並みの大雨を降らせましたが、問題の吾妻(あがつま)川流域の水量は、国土交通省の予測を大幅に下回りました。

利根川の浸水想定区域についても、国土交通省は、上流でキヤスリン台風並みの大雨が降れば、「毎秒二万二〇〇トン」の水が通ると大宣伝をしましたが、情報公開資料で調べてみると、実は、国土交通省自身が、八ツ場ダムが無い現状でも、一万六七五〇トンにとどまると試算していました。水位は上がっても、堤防の下二メートルを流れる程度ですむということなのです。

「継続より中止の方が高くつく」とか、「事業費の七割も使ったのだから、完成させた方がいい」という議論もありますが、ダム本体工事は未着工です。しかも、残りの予算で完成できる見通しは全くありませんし、ダムに集中するより、流域全体の治水対策にお金をまわすべきです。

日本共産党は、環境破壊と無駄づかいの八ツ場ダム建設は、中止するべきだと考えます。

大事なことは、ダム受け入れを余儀なくされた方々へのお詫びや、情報公開、ダム建設中止の理由の説明、何よりも住民の生活再建と地域振興策——これらを踏まえて、建設中止に踏み込むことではないでしょうか。そのためにも、地元住民参加の協議会をつくることを提案します。

塩川鉄也衆議院議員の現地調査など、詳しく報道する「しんぶん赤旗」を是非お読みください。